

生乳の需給等に係る情報交換会（第13回）議事概要

開催日時：令和8年7月16日（木）10:00～11:30

開催場所：対面・web 会議

出席者：別添参照

議事概要：

農林水産省から、資料に基づき、①酪農経営の安定と牛乳の安定供給に必要な取組、②生乳生産量と牛乳需要量の見通しについて説明し、それを踏まえた出席者からの意見の概要は以下のとおり。

（1）酪農の暑熱対策について

（MMJ）毎年暑さが厳しくなっており、東北・北海道では気温上昇が激しくついていけないと言っている。受精卵移植により受胎率は高まるが、気温が高すぎると流れてしまい受胎しないので万能ではない。ソーラーパネルは、設置やメンテナンスは業者がやるため、農家の出費はゼロ、断熱効果と電力供給で有効。ホルスタインの品種改良は乳量拡大に進んでいるが、暑さに強い品種改良も始める必要。砂の床は高コストだが、冷涼性があり、夏期に適した安息性が得られるため、暑熱対策に含めてほしい。

（中国販連）ソーカーは汚水処理や湿度上昇が課題。スポットクーラーはほこりの対応や電気代、設置費用が課題。トンネル換気にミストを加えると効果的。トンネル換気用に自動開閉できる壁を導入した農家もいるが、やはり金がかかるので、クラスター事業で大規模な牛舎改修にも取り組めるといい。受精卵移植事業は、和牛が対象になっていないことと、交雑種受精卵の流通量が少ない点が取り組みづらい。

（九州販連）需要期生産を念頭に以前から暑熱対策を行ってきた。ランピースキン病がきっかけで牛舎環境整備に対する生産者の意識改革となり、サンバエ対策を通じて牛の密集を防止するなど暑熱対策としての効果も出ている。

（やよい浜風）7～8月は受精卵移植にすると5月分娩も多くなる。飼料設計や草地更新による消化性の良い牧草の生産等、トータルで考えていく必要がある。ミストは、気化するぐらい細かい粒度のものを付けた方がいい。

（2）不需要期の乗り越え方について

【年度末の需給について】

（関東販連）年度末の需給が厳しかった要因は、①飲用向け乳価の値上げ等に伴う飲用需要減退、②大規模生産者を主体とする堅調な生産、③域外加工場の受乳停止、④業務用需要の減退など。

【不需要期の対策について】

（関東販連）個人単位での需要期生産の成功事例を横展開してほしい。生乳使用比率の引上げは、大手には不需要期だけの製品企画を期待。中小乳業や、発酵乳や乳酸菌飲料で高い割合を占める非乳業に取組が広がることも期待。

(SV 良品開発) 需給調整は系統内外問わず共通課題があると認識。当社はメーカー直系の卸売りで全国的にも特殊な形態。余乳は自助努力で練乳・生ク等にして自社利用により商品化。生乳の魅力作りとして、個性を打ち出したものを年間通じて販売できる体制を目指す。需給調整に協力する乳業には農水省の補助があっても良いのではないかな。

(しんじゅ) 需給調整は生産者の乳価を守る上での課題。系統内外一丸となって取り組めれば。そのためには、①需要創出の強化（学校が休みの際の高齢者施設へのアプローチ）、②生産の平準化（分娩時期の分散や飼料設計等）、③広域調整（系統内外の枠を超えた需給データの共有により、地域を超えた生乳流通や施設の共同利用のルール化）が必要。業界共通の需給調整メカニズムの構築が持続可能な酪農経営に繋がる。

(やよい浜風) 海外に目を向けて輸出に取り組むのも一つの方法。

(ホクレン) 生産者と乳業者が相互に責任を持って協調することが重要。酪農経営の持続性を支え、生乳の価値を維持するには、弾力的な用途別取引、乳製品向け処理を含めた需給調整機能の発揮が大切。そこには乳製品加工能力の拡充が大事。チーズは国産需要拡大の余地が大きい分野。不需要期の取組として輸入品の置換え等も有効である一方、価格差が課題。負担の偏りを感じると、需給調整機能そのものが弱まり、国内酪農の生産基盤の縮小につながる。生産抑制を繰り返さないために、出口対策に重点を置きながら、入口対策についても何が有効か、また消費拡大施策も含め関係者と早期に議論し取り組んでいきたい。

(3) 乳脂肪分の基準

(中国販連) 乳脂肪と乳量は反比例。3.5%基準を維持するために乳量を犠牲にする農家もいる。需要期の生乳を増やすには乳成分の基準見直し等があれば対応しやすい。

(MMJ) 乳脂肪の基準について、個別乳業ごとの交渉では難しい。農水省で委員会などを開き、業界として妥当な数字を決めてもらえれば、メーカーとの協議もスタートしやすい。

(4) 安売り低脂肪乳

(農水省) 7月7日の業界紙で取り上げられた安売り低脂肪乳の件について。コスト割れした価格での販売は、他の多くの牛乳価格を引き下げる圧力となり、また生産者段階での牛乳仕向け乳価が全体として下がることから問題。生乳の価値の毀損、サプライチェーンが持続しないこと、他の牛乳、生産者乳価への影響も否定できないこと、といった懸念があることも含めてこの場でも共有したい。

(以上)